

「ままごと」の新聞

newspaper of
mamagoto

第9号

「ままごと」の新聞は、
柴幸男の作品を上演する団体「ままごと」が
不定期に発行する活動報告紙です。
発行日：2014年1月29日
発行元：ままごと

「ままごと」が語る《2013年から、2014年》



小豆島にて。左から端田、柴、大石、宮永



2013年はやれなかった
ことが出来た1年

Yukio Shiba
愛知県出身。2010年『わが星』にて第
54回岸田國士戯曲賞を受賞、同年に劇
団「ままごと」を旗揚げ。

2013年の「出会い」の中で、忘れ
られない人やエピソードは？
柴 いつも（小豆島のおさんば演劇の時

宮永 真砂喜の助製麵所の手延べそうめん。小豆島から戻った後も家でお取り寄せ

——2013年の「ままごと」の活動で
印象深かったものはなんですか？
柴 『朝がある』小規模なツアー、小豆島
での春夏秋冬、『日本の大人』の戯曲執筆
象の鼻、の全部です。どれも今までにやら
なかった、やれなかったことが出来ました。
初めての障害をクリアしていくのは快感で
もありましたね。
宮永 おそらくほかのメンバーとも共通し
ていると思いますが、瀬戸内国際芸術祭に
おける小豆島での滞在制作が印象に残って

2013年は瀬戸内国際芸術祭に参加し、
小豆島での滞在制作というビッグ・プロ
ジェクトを敢行した「ままごと」。さらに、
『朝がある』弾き語りTOUR、あいちトリ
エンナールで発表した親子向け作品『日
本の大人』、横浜・象の鼻テラスでの
Theater ZOU・NO・HANAな
どなど、さまざまな土地・形態での作品
づくりにも挑みました。そんな昨年の活
動を振り返りつつ、劇団員たちが
2014年への抱負を語ります。



小豆島は今後も
大きな拠点に

Takuo Miyanaga
東京都出身。プロデュースコンニ
トZuQnZ（ズクンズ）主宰。

います。アーティストと島の人たちの協力
関係がなければ成功しなかったプロジェクトで、春・夏・秋会期の長期間で、我々も
島のひとと共に作品をつくり上げたように感
じました。それは、小豆島が今後の「まま
ごと」の創作活動にとって非常に大きな拠
点になると同時に、我々の《帰る場所》に
なったということだと思います。
大石 年のはじめの『朝がある』弾き語り
TOUR。行く先々で、その場所にある力
を借りて演劇を立ち上げていく作業が印象
に残っています。つくりものを場所に運ぶ
んじゃないって、まず場所と仲良くなるうと
する姿勢は、そのあとの昨年の活動にも貫
かれていたなあ。あ、あと劇王に参加し
た『つくりばなし』で、それまで稽古して
いたものと内容も毛色も全然違う台本が、
ある日どかんと出てきた時はえらい驚いた
のを覚えています。
端田 上半期、男たちがずっと旅をしてい
る間に、「ままごと」を法人化しました。
劇団活動というものは、クリエイション以
外にもいろいろあるもんだなあと思ったら
て思いましたね。
——2013年の「出会い」の中で、忘れ
られない人やエピソードは？

柴 森本さん（軽トラに乗ったおばあちゃん
の魚屋さん）から買ったあさりで作った、
真砂そうめんボンゴレ。景色はそこでも絶
品です。
宮永 真砂喜の助製麵所の手延べそうめん。小豆島から戻った後も家でお取り寄せ

に横を通らせてもらったお家のおばあさん
です。おばあさんはいつも何も言わず、一
人で通りを眺めていました。あいさつして
も、頭を下げて、返事はありません。春も、
夏も、秋も、一人で黙って、町の人も話
をしていてところさえも見たことはありま
せんでした。だけど最後のおさんば演劇、
そのおばあさんが1時間ずっと歩いてつい
てきてくれました。そして最後に拍手をし
てくれたんです。

宮永 いつも以上に日本全国を転々とした
中で本当に多くの方に助けていただいた1
年だったと思いますが、わりやりお一人を
選ぶとするなら「はえぎわ」のノゾエ征爾
さんでしょうか。はえぎわ『ガラパゴスバ
コス』（柴幸男が出演）の公演中、よく帰
りの電車でお話させていただいたのです
が、私の「劇団を長く続けるコツって何で
すか？」という質問に「何も考えないこと
ですかね」と笑ってお答えになったのが忘
れられません。本当に紳士な方です。素敵
大石 小豆島での出会いはどれも思い出深
いです。滞在していた作家さんたちも、迎
えてくれた島の人も、熱量と馬力があつ
て、でも屈託がなく、いろんな人のいろ
んな面に感動しました。デザイナリーの飯田
将平君はよく海に潜っていて、ある日か
い牡蠣がとれたって目を輝かせて、「クラ
ゲがうじゃうじゃいてあちこち刺されまし
たけど、今も右手しびれています。あはは」
「あはは」じゃねえよって思いました。
端田 小豆島で合カヨさんにたくさん助け
ていただきました。カヨさんのお孫さんと
うちの息子は誕生日が近いんです。ほかに、
小豆島での「しましまようえん」という
育児サークルや、介護を通じてのコミュニ
ティーの方々との出会いは、今後の小豆島
での活動にもつながっていくと思います。
——昨年の短期「島民 生活を経て、あな
たが選ぶ小豆島の「絶品」は？
柴 森本さん（軽トラに乗ったおばあちゃん
の魚屋さん）から買ったあさりで作った、
真砂そうめんボンゴレ。景色はそこでも絶
品です。
宮永 真砂喜の助製麵所の手延べそうめん。小豆島から戻った後も家でお取り寄せ